

■フランス・ドイツ：E.ON、初の太陽光発電所が南仏で稼働

ドイツのエネルギー大手 E.ON は 2009 年 6 月 4 日、同社初の太陽光発電所がマルセイユの北 150 キロメートルにあるル・ロゼで一部運転を開始したと発表した。発表によれば、完成後の発電設備容量は 5,000kWp で、年間 4,270 トンの CO2 排出量削減に貢献する。同地域は日照時間が長く、最高出力での稼働が年間 1,400 時間以上に達すると見込まれている。同発電所では複数のメーカーの太陽電池の性能や経済性をテストする計画であり、その中にはドイツのマグデブルクにある自社工場で製造される薄膜モジュールも含まれる。なお、同社は、2007 年から 2011 年までに再生可能エネルギー分野へ 80 億ユーロ（約 1 兆 800 億円）を投資する計画であり、2015 年までに再生可能エネルギーによる発電設備容量を少なくとも 1,000 万 kW に引き上げる目標を掲げている。